



高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740(32)4156
http://takashima-tojukai.com/

「藤樹先生と易」

高島藤樹会理事 深川澄雄



四書五経(しよごきょう)は、儒教の経書の中で特に重要とされる四書と五経の総称です。

中江藤樹先生もこれを勉強されたとされています。四書五経―四書は『論語』『大学』『中庸』『孟子』、五経は『易経』『書経』『詩経』『礼記』『春秋』。その中の一つ易経を少し覗いてみようと思います。(ここでは、占いの八卦ではなく哲学です)



筮竹と算木カード
(藤樹記念館内)



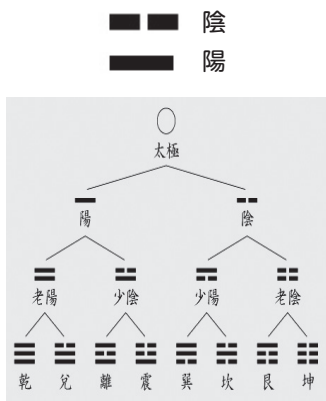
神龕欄間
(藤樹書院内)

藤樹書院を訪れますと、書院内の祭壇の中央には藤樹夫妻の神主(仏教でいう位牌に当たる)が祀られています。

その神主を容れた厨子様の容れ物は、神龕欄間(しんがんらんま)といい、その上部には、易卦が刻まれています。

また、藤樹記念館には、中江藤樹先生が作られ使われたであろう、筮竹(ぜいちく)(竹ひごのようなもの五十本)、算木(さんぎ)を模した六十四卦のカードが残されています。

易の基本的な考え方は、宇宙は陰陽の二元から成り立っておりその陰陽の組み合わせで八卦の基本形をつくり、その八卦を組み合わせたものが六十四卦あります。その六十四卦で森羅万象をみるものです。



先ほどの神龕欄間の上部に易経の卦の一つ「謙」の卦が刻まれています。

謙の卦は、上から、陰、陰、陰、陽、陰、陰。となっており、上三つ(上卦)がすべて「陰」で八卦の「地」を表し、下三つ(下卦)は三つの内上だけが「陽」あとは「陰」となっており、八卦の「山」を表します。その、上が「坤地」(外卦ともいいます)で、下が「山」(内卦ともいいます)で、易経を開けますと、十五

☷ 坤 → 地

☶ 艮 → 山



番目の「地山謙」となっております。

その解釈ですが、藤樹先生との関連性で読んでみます。

ここからは、私の考えです。

さて、「地山謙」という卦は、「謙虚で慎み深く」という意味ですが、もう少し深く見てみましょう。

六本の算木中五本が陰一本が陽。この陽は藤樹先生を指し、陰は教えをうけている人達を指しているのではないのでしょうか。それに、外卦の陰二本は書院以外の方々に、内卦の陰二本が書院の中の方々と思われまます。外部の方々も教えを請い求めて来られているが、教えられているのは書院でしかお話しはされていないともとれます。

また、先生は自分を磨くために勉強をされておりますが、卦の表すとおりに自分から進んで教えることはなかったのかと思われまます。ただ、教えを請われれば出し惜しみせずその方のためにできる限りの事をされていたと読み取ることもできます。

先生は、卦の表すとおりに、謙虚で請われれば誰にでも惜しみなく自分の学んだ事を伝えられた素晴らしい方だったと思います。

この、素晴らしい藤樹先生の教えを誰にでも(子供にも大人にも)わかりやすく伝えていきたいと思えます。